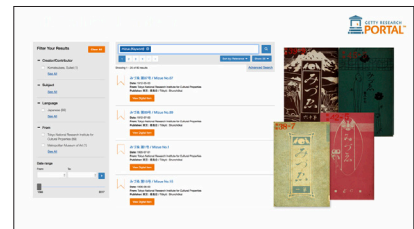


文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

目的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成果 1. 調査研究の成果の公開と、研究情報の国際発信

- 平成28年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を Japanese Institutional Repositories Online (JAIRO) を通じて公開する作業を進め、『美術研究』(879件)、『芸能の科学』(163件)、『無形文化遺産研究報告』(78件)、『保存科学』(745件)、『音盤目録』(7件)、『日本美術年鑑』(72件)を今年度新たに追加した結果、合計6タイトル3,454件の論文・刊行物のフルテキストを掲載・公開した。
- Getty研究所のGetty・リサーチポータルに当研究所所蔵の貴重書で、デジタルコンテンツ化した『みづゑ』1～90号(春鳥会、1901～1912年)及び『第1回特別展覧会目録、第2回特別展覧会目録〔合本〕』(東京帝室博物館、1901年)が掲載され、今後も提供データを増やしていくための調整と作業を進めた。
- 1930(昭和5)年から2013(平成25)年までの展覧会カタログ掲載記事・論文のデータ約5万件を「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに公開した。



Getty・リサーチポータルでのデジタルコンテンツ公開

2. 国内外の関連機関との協働研究・協議

- 京都府所蔵資料の情報共有について協議し、昭和初期の資料のデジタル化を行った。
- 国際図書館連盟(IFLA) ヴロツワフ(ポーランド)世界大会に参加し、研究協議を行った(2017(平成29)年8月19～25日)。
- 日本資料専門家欧州協会(EAJRS) オスロ大会に参加し、ブース発表及び研究協議を行った。(2017(平成29)年9月12～18日)。
- Getty研究所との研究交流及び国際協働事業を推進し、2017(平成29)年12月6日に「キャスリーン・サロモン氏(Getty研究所副所長)講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」を開催し、今後の協働事業について協議した。
- イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議を行い、講演を行った(2018(平成30)年2月13～17日)。

報告・江村知子「研究会「キャスリーン・サロモン氏(Getty研究所副所長)講演会—日本美術資料の国際情報発信に向けて」開催報告」『アート・ドキュメンテーション通信』116 pp.9-11 18.1

発表・塩谷純「崇敬と好奇、そして禁忌のまなざし—明治天皇の視覚表現をめぐって」イギリス・セインズベリー日本藝術研究所 18.2.15

セインズベリー日本藝術研究所での講演会



研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、津田徹英、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣(客員研究員)

日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

目的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

- 成果**
1. 美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年記資料集成）を作成するため1999（平成11）年以降の展覧会図録から年記のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェア FileMaker Pro を使用して入力を行った。
 2. 下記「発表」のとおり本プロジェクトにかかる研究会を行った。
 3. 個人蔵「四条河原遊楽図屏風」のほか、各地に所蔵される「遊行上人絵伝」について複数回の調査を行った。
 4. 仏教美術等の光学的手法による共同研究を東京国立博物館と開始し、博物館所蔵の平安仏画につき、可視光のみならず、近赤外線、蛍光、蛍光X線、透過X線などによる多角的光学調査に着手した。



「日本絵画史年記資料集成」データベース画面

論文・姚崇新(濱田瑞美訳)「コートン・ドモコ仏寺跡出土千手千眼観音壁画の初歩的考察—敦煌との比較を兼ねて—」『美術研究』422 pp.1-28 17.8

・津田徹英「詞書の筆跡からみた金蓮寺本『遊行上人縁起絵』の位相」『美術研究』423 pp.1-43 17.1

・山下善也「狩野山雪と「和」の画題—「武家相撲絵巻」をめぐる—」『美術研究』423 pp.67-94 17.1

発表・安永拓世「呉春筆「白梅図屏風」の史的 position」文化財情報資料部研究会 17.5.30

・綿田稔「橋本雄「雪舟入明再考」に寄せて」文化財情報資料部研究会 17.8.7

・津田徹英「資料紹介 滋賀・浄厳院蔵 木造 釈迦如来立像」文化財情報資料部研究会 17.10.24

・佐藤有希子「京都・青蓮院伝来の二体の毘沙門天立像に関する一考察」文化財情報資料部研究会 17.10.24

・増田政史「中宮寺文殊菩薩立像に関する一考察」文化財情報資料部研究会 18.2.27

刊行物・東京文化財研究所編『鏡神社所蔵 重要文化財 絹本着色 楊柳観音像 光学調査報告書』18.3

研究組織 ○小林達朗、津田徹英、二神葉子、小林公治、塩谷純、江村知子、安永拓世、小野真由美（以上、文化財情報資料部）、近松鴻二（客員研究員）

近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

目的 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。

- 成果**
1. 当研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、黒田の養母貞子からの書簡の翻刻を『美術研究』422号に、洋画家山本芳翠からの書簡の翻刻を同誌423号に掲載した。
 2. 2010(平成22)年刊行の『黒田清輝フランス語資料集』に収録された諸資料のウェブ公開に向け、校正等の準備を始めた。
 3. 2015(平成27)年に遺族より寄贈された彫刻家畑正吉のフランス留学期写真資料を、ウェブ上で公開した。
 4. カリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館に開設した美術評論家のヨシダ・ヨシエ文庫の調査を行い(2018(平成30)年2月19、20日)、同文庫開設に携わった各部署担当者とアーカイブ連携等についての研究協議会を開催した(2018(平成30)年2月20日)。



ヨシダ・ヨシエ文庫に関する研究協議会の様子

5. 公開研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」を開催(2018(平成30)年3月16日)、明治～昭和戦前期の美術雑誌を対象に、美術史研究資料としての意義を検証し、その情報の整理、公開、共有のあり方について協議を行った。
6. 久米美術館との共同研究を遂行、今年度は同館が所蔵する久米桂一郎宛黒田清輝書簡の翻刻作業を行った。
7. 齋藤達也氏(客員研究員、パリ・ソルボンヌ大学在籍)の発表による部内研究会を開催、フランスにおける近代美術関連資料の活用例をめぐって意見交換を行った。
8. 岸田劉生に関する部内研究会を開催(2017(平成29)年12月26日)、そのヨーロッパ古典絵画受容の面から大正初年における写実表現の形成過程の内実を考察した。

論文・田中淳「岸田劉生研究―「駒沢村新町」療養期を中心に」『美術研究』422 17.8

・山梨絵美子「黒田清輝 婦人像(厨房)」『國華』1467 18.1

発表・齋藤達也「フランスにおける近代美術資料 美術館・図書館・アーカイブ・インターネットリソースの紹介と活用例」文化財情報資料部研究会 17.9.5

・田中淳「岸田劉生における1913年から16年の「クラシツク」受容について」文化財情報資料部研究会 17.12.26

・塩谷純「東京文化財研究所の美術雑誌 その収集と公開の歩み」研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」18.3.16

研究組織 ○塩谷純、橘川英規、城野誠治、田所泰(以上、文化財情報資料部)、山梨絵美子(副所長)、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也(以上、客員研究員)

美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

目 的 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待される。

- 成 果**
1. 漆器類などに関わる調査研究
 - ・ 覚書を結んでいる南蛮文化館所蔵品中の修理対象品を2017(平成29)年4月19日に奈良国立博物館に搬入の上、関係者と研究協議を行った。
 - ・ 2017(平成29)5月3日、根津美術館にて同館所蔵の螺鈿漆器類3点の調査を実施した。
 - ・ 2017(平成29)年9月19、20日、甲賀市藤栄神社所蔵十字形洋剣について、アメリカ、メトロポリタン美術館武器武具部門長のピエール・テルジャニアン博士による実見調査を行った。
 - ・ 2017(平成29)年9月21日に京都市内の銚金具工房での聞き取り調査、茨木市内の隠れキリシタン村において伝世漆器の調査を実施した。
 - ・ 2018(平成30)年1月12、13日、大和文華館・大阪城天守閣及び南蛮文化館にて各館が所蔵する南蛮漆器ほかの調査を実施した。
 - ・ 2018(平成30)年3月1日、上記修復中の南蛮漆器及び南蛮文化館所蔵南蛮漆器について、奈良国立博物館にてCTスキャン調査を実施し、非破壊法による樹種同定・また年輪年代法への応用可能性について検討・研究協議を行った。また翌2日に南蛮文化館にて南蛮漆器調査を実施した。
 - ・ 旧所員故柳澤孝氏寄贈写真類の整理作業及びそのデータベース化作業を行い今年度末までに約3,200件を終了した。
 2. 研究成果公開
 - ・ 2017(平成29)年9月2日に韓国国立中央博物館で開催された第9回国際学術講演会「日本が愛した朝鮮美術」において、「アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題」と題した発表を行った。
 - ・ 2017(平成29)年9月22日開催の第7回文化財情報資料部研究会において、ピエール・テルジャニアン博士により「メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器武具と甲賀市水口に伝わるレイピアの検討」と題した発表を、2017(平成29)年11月21日開催の第9回文化財情報資料部研究会において、高田知仁氏による「タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味」という発表を行った。

報 告・小林公治「アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題」『第9回国際学術講演会 日本が愛した朝鮮美術資料集』 pp.31-64 17.9

発 表・小林公治「アジアとの関係から考える朝鮮半島螺鈿史の検討課題」Lee&Won財団主催 第9回国際学術講演会「日本が愛した朝鮮美術」17.9.2

・ピエール・テルジャニアン「メトロポリタン美術館が所蔵するヨーロッパの武器武具と甲賀市水口に伝わるレイピアの検討」第7回文化財情報資料部研究会 17.9.22

・高田知仁「タイにおける螺鈿工芸の変遷とその意味」第9回文化財情報資料部研究会 17.11.21

刊行物・『南蛮漆器の多源性を探る予稿集 増補版』pdfファイルの発刊とインターネット公開 17.6

研究組織 ○小林公治、津田徹英、小林達朗、二神葉子、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、田所泰、(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘(保存科学研究センター)、中野照男(客員研究員)

無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

目的 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

- 成果**
1. 無形文化財に関する調査研究
 - ア) 芸能分野：古典芸能（歌舞伎・文楽・三味線音楽ほか）に関する調査研究・日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究
 - イ) 工芸分野：古典膠製造に関する試用依頼と結果報告、及び絹糸製作技術調査（関春日神社、宝生能楽堂）



楽器製作・修理技術の調査（浅田三味線店 井坂重男氏）

2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
 - ア) 諸芸：講談及び落語（正本芝居噺）の実演記録を作成（一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席・林家正雀師2席）
 - イ) 平家：伝承曲及び復元曲の実演記録を作成（菊中央雄司氏ほかによる伝承曲1曲、復元曲3曲）
3. 研究調査に基づく成果の公表
 - ア) 特別座談会「能+1 絹と織—絹織物」（宝生能楽堂、4月9日）
 - イ) 総合研究会「無形文化財保存技術に関する報告—三味線を中心に—」（東京文化財研究所、10月3日）



特別座談会「能+1 絹と織—絹織物」での展示

- 論文**・菊池理予「友禅染と青花紙の関わりに関する一試論」『無形文化遺産研究報告』12 pp.23-39 17.3
- ・前原恵美「江戸祭礼と歌舞伎をめぐる三味線音楽演奏者の動向—常磐津節を中心に」『江戸総鎮守 神田明神論集』1 pp.73-100 17.5
- 報告**・前原恵美、橋本かおる「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告1」『無形文化遺産研究報告』12 pp.41-65 17.3
- 発表**・前原恵美「江島弁財天信仰と常磐津節演奏家—浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図〉を起点に一」東洋音楽学会 17.12.2

研究組織 ○飯島満、前原恵美、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、星野厚子（客員研究員）

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(402)

目 的 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術については、国により選定された技術及び未選定の技術について情報を収集し、そのなかで重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

成 果 1. 風俗慣習の調査として樹木祭祀や正月儀礼等について、民俗芸能の調査としてシシ系芸能や風流系芸能等について、民俗技術の調査として鶴飼船の製作技術や箕の製作技術、製糖技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状把握とともに現地関係者とのネットワークを構築した。



厚沢部町(北海道)の鹿子舞

2. 災害被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、福島県浪江町の苅宿鹿舞、宮城県女川町の獅子舞、福岡県朝倉市蜷城の獅子舞に関して調査を行い、資料収集・記録保存を行った。苅宿に関しては民俗誌を発行した。また無形文化遺産総合データベース・アーカイブスの構築とデータ収集を行った。
3. 第12回無形民俗文化財研究協議会を「無形文化遺産への道—ユネスコ無形文化遺産条約と地域の遺産」をテーマに東京文化財研究所において開催し、129名の参加を得た。3件の基礎講座、2件の事例報告をもとにコメンテーター1名を含めた総合討議を行った。成果は『第12回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。また国指定の箕製作技術の団体等を招いて「箕サミット」を開催して86名の参加を得、技術伝承に向けた現状と課題の共有・討議を行った。成果は『箕 箕サミット2017の記録』にまとめた。
4. 選定保存技術については、未選定の文化財の保存技術の調査として、友禅の下絵に用いる染料である青花紙の製作について滋賀県草津市と共同研究を実施し、現地調査と記録作成を行った。また青花紙の使用の現状を明らかにするため、友禅作家・職人等を対象に、アンケート調査と聞き取り調査を実施した。

論 文・久保田裕道「無形文化遺産の防災という考え方—東日本大震災の教訓と無形文化遺産アーカイブスの試みから」『震災後の地域文化と被災者の民俗誌』新泉社 pp.53-68 18.1

報 告・今石みぎわ「タモノキとニソの杜—大島半島のタブノキの民俗」『大島半島のニソの杜の習俗調査報告書—資料編—』福井県大飯郡おおい町教育委員会 pp.55-71 18.3

・神野知恵「小豆島の民俗と伊勢大神楽」『無形文化遺産研究報告』12 pp.67-100 18.3

発 表・今石みぎわ「鶴飼のわざを後世へ伝える—民俗技術としての長良川鶴飼」第10回市民講座 長良川鶴飼ミュージアム 18.2.17

刊行物・『かりやど民俗誌』東京文化財研究所 18.3

研究組織 ○飯島満、久保田裕道、石村智、菊池理予、今石みぎわ(以上、無形文化遺産部)、江村知子(文化財情報資料部)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池健策、宮田繁幸、神野知恵(以上、客員研究員)